

一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブの活動



水と生態系WG

2018年3月28日

<http://www.jbib.org>

JBIBについて



- ・ 設立
 - 2008年4月、発起人は14社
- ・ 会員
 - **全45社(正会員: 30社、ネットワーク会員: 15社)**
- ・ 理事
 - 秦 喜秋 (会長、三井住友海上火災保険株式会社 シニアアドバイザー)
 - 國本 裕 (副会長、味の素株式会社 常任顧問)
 - 田中 秀輝 (副会長、花王株式会社 執行役員 購買部門統括)
 - 足立 直樹 (事務局長、株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役)
 - 加藤 茂夫 (株式会社リコー 執行役員 サステナビリティ推進本部長)
 - 金光 英之 (富士通株式会社 環境本部長)
 - 関谷 哲也 (株式会社竹中工務店 常務執行役)
 - 西貝 昇 (三菱地所株式会社 取締役兼執行役常務)

JBIBの活動目的



1. 企業と生物多様性に関する研究と実践
2. ステークホルダーとの対話と連携
3. グッドプラクティスの国内外への情報発信
4. 生物多様性への取組を促進するための提言・啓発
5. その他、上記の目的を達成するための事業

(定款より)

生態系体感研修会の開催



2008年：長野県（アフアの森）

2009年：愛知県（藤前干潟、日間賀島 など）

2010年：滋賀県（針江の川端、たかしま生きもの田んぼ、琵琶湖、小舟木エコ村など）

2011年：兵庫県（県立コウノトリの郷公園）、奈良県（奈良公園、春日山原始林など）

2012年：愛知県（矢作川上流での森の健康診断の体験、トヨタの森）

2014年：宮城県（ふゆみずたんぼ、雁の保全、南三陸町の持続可能な農林水産業）

2015年：静岡県（富士山麓に位置する企業緑地、FSC認証林・製材所、世界農業遺産の茶農園）

2016年：山梨県（イオンアグリ創造、生長の家森の中のオフィス、キープ協会、アサヒ、FSC認証林）

2017年：滋賀県（ダイフク、滋賀銀行、たねや）・京都府（京都学園大学太秦キャンパスほか）



正会員:5つのワーキンググループ



1. 自然資本研究WG
2. 持続的土地利用WG
3. 水と生態系WG
4. いきもの共生森づくりWG
5. 原材料調達WG



WG活動の説明-1



1. 自然資本研究WG

企業と生物多様性の関わりを可視化することを目的とした「企業と生物多様性の関係性マップ®」を開発。現在は、企業の活動の自然資本への影響をサプライチェーン全体で簡易的に定量化する手法の開発に取り組む。

2. 持続的土地利用WG

企業保有地の土地利用に関する生物多様性評価指標を研究し、「いきもの共生事業所®推進ツール3点セット」を開発。2013年度には「いきもの共生事業所®推進ガイドライン」の第3版が完成。2014年度に、当ガイドラインをもとにした認証制度（ABINC認証）がスタート。

3. 水と生態系WG

生物多様性に配慮した事業所の水管理の推進や、事業活動における環境負荷の低減を目指し活動。2013年5月に「生物多様性に配慮した企業の水管理ガイド」を発行。当ガイドをもとにした、現場で活用するための評価ツールを開発。より実践的なツールにするために、現地視察などを行う。

WG活動の説明-2



4. いきもの共生森づくりWG

企業が生物多様性に配慮した森林保全活動を行うための手順や方法をまとめた「**いきもの共生森づくりガイドライン**」を開発。現在はガイドラインにもとづいた森づくりを実践しながら、ガイドラインのブラッシュアップと普及を行っている。2016年度からは**野外での実施研修としてWSを実施**。

5. 原材料調達WG

原材料から最終処分までの全体的な製品ライフサイクルを考察し、参画各社が**事業と密接に関連する原材料調達への取組みを強化していくための研究**を実施。その成果を「生物多様性に配慮した企業の原材料調達推進ガイド」としてまとめ公表。2017年度は、森林破壊ゼロについての調査を行なった。

WG活動の成果



自然資本研究WG	水と生態系WG
企業と生物多様性の関係性マップ®解説書	生物多様性に配慮した企業の水管理ガイド
持続的土地利用WG	生態系に配慮した企業の水管理評価ツール
いきもの共生事業所ガイドライン第3版	いきもの共生森づくりWG
いきもの共生事業所ガイドライン (英語版サマリー)	いきもの共生森づくりガイドラインβ版
Greener Business Sites(英文小冊子)	いきもの共生森づくりガイドラインβ版サマリー
土地利用通信簿(標準版)	原材料調達WG
土地利用通信簿(都市・SC版)	生物多様性に配慮した企業の原材料調達推進ガイド 【日本語版・英語版】
土地利用通信簿(集合住宅版)	森林破壊ゼロに関する調査レポート
いきものモニタリングシート	その他
自然共生街づくり読本 【日本語版・英語版】	生物多様性への取り組みヒント集・同 手引書
	生物多様性ハンドブック

一部は以下のURLから
ダウンロードできます:

<http://jbib.org/about/output/>

国内外への情報発信

エコプロでシンポジウムを毎年開催

2012年「自然資本で実現するグリーンエコノミー」

2013年「水から取り組む自然資本～企業の実践ガイド～」

2014年「持続可能な原材料調達のために企業がすべきこと、先進企業がしていること」

2015年「改訂ISO14001:生物多様性の対応はこうする

～生物多様性の先進企業からの提案～

2016年「SDGsとESGにおける生物多様性の重要性」

2017年「SDGsと生物多様性」



水と生態系WGの活動

水と生態系WGが目指す姿

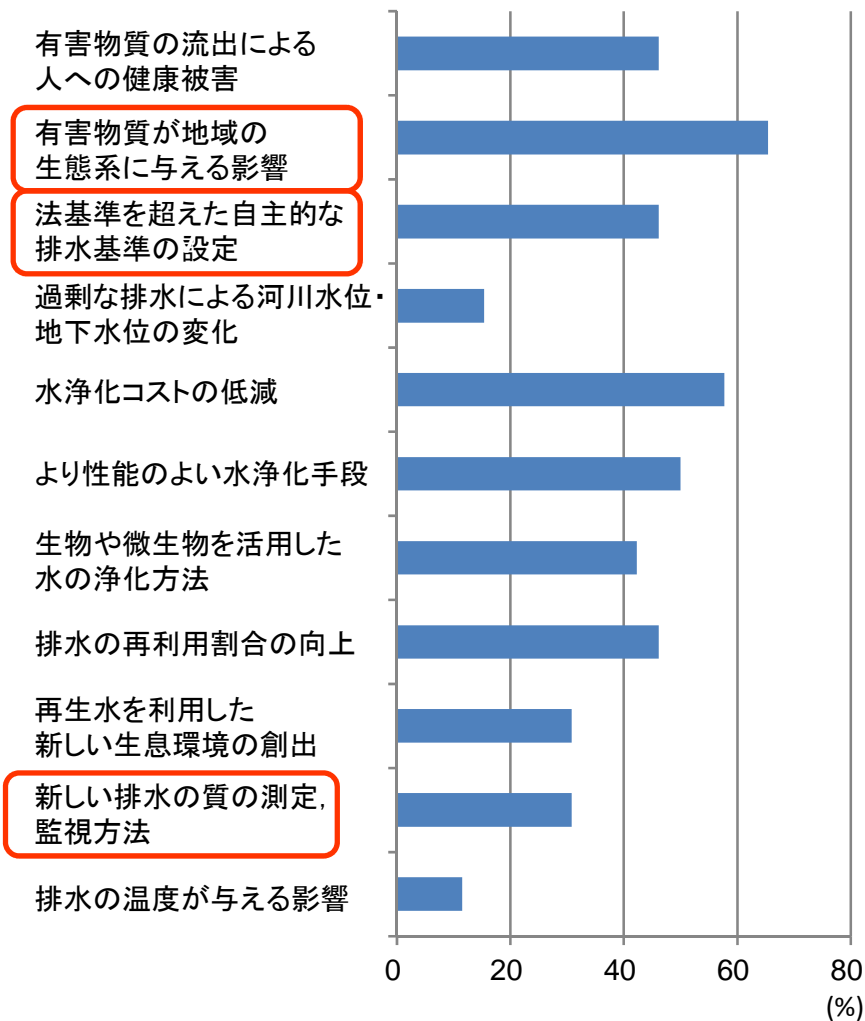


持続可能な水資源の利用と生物多様性保全の両立にむけて、
水管理の新たな取り組みの普及を目指す

目指すべき、企業の水管理

「水資源のニュートラルリティ」
と
「生態系のノーネット・ロス」
の両立

企業での水利用状況アンケート結果



対象：JBIB会員企業、実施期間：2012年10～11月

質問『現在使用している水の「排水」について、御社で関心の対象となる水の問題や、重要となる可能性がある取り組みについて、あてはまる項目すべてにチェックをつけてください。(複数回答可)』

アンケート結果より

1. 有害物質が地域生態系に与える影響を懸念
2. 法基準を超えた自主的な排水基準の設定
3. 新しい排水の質の測定方法、監視方法が今後重要になることが伺える



排水の地域生態系に配慮した管理、取り組みが必要

水と生態系WGの成果

企業の各活動レベルでの 水管理の考え方・事例



生物多様性に配慮した
企業の水管理ガイド
(2013年発行:一般公開)

企業の各活動レベルでの 水管理・評価の視点

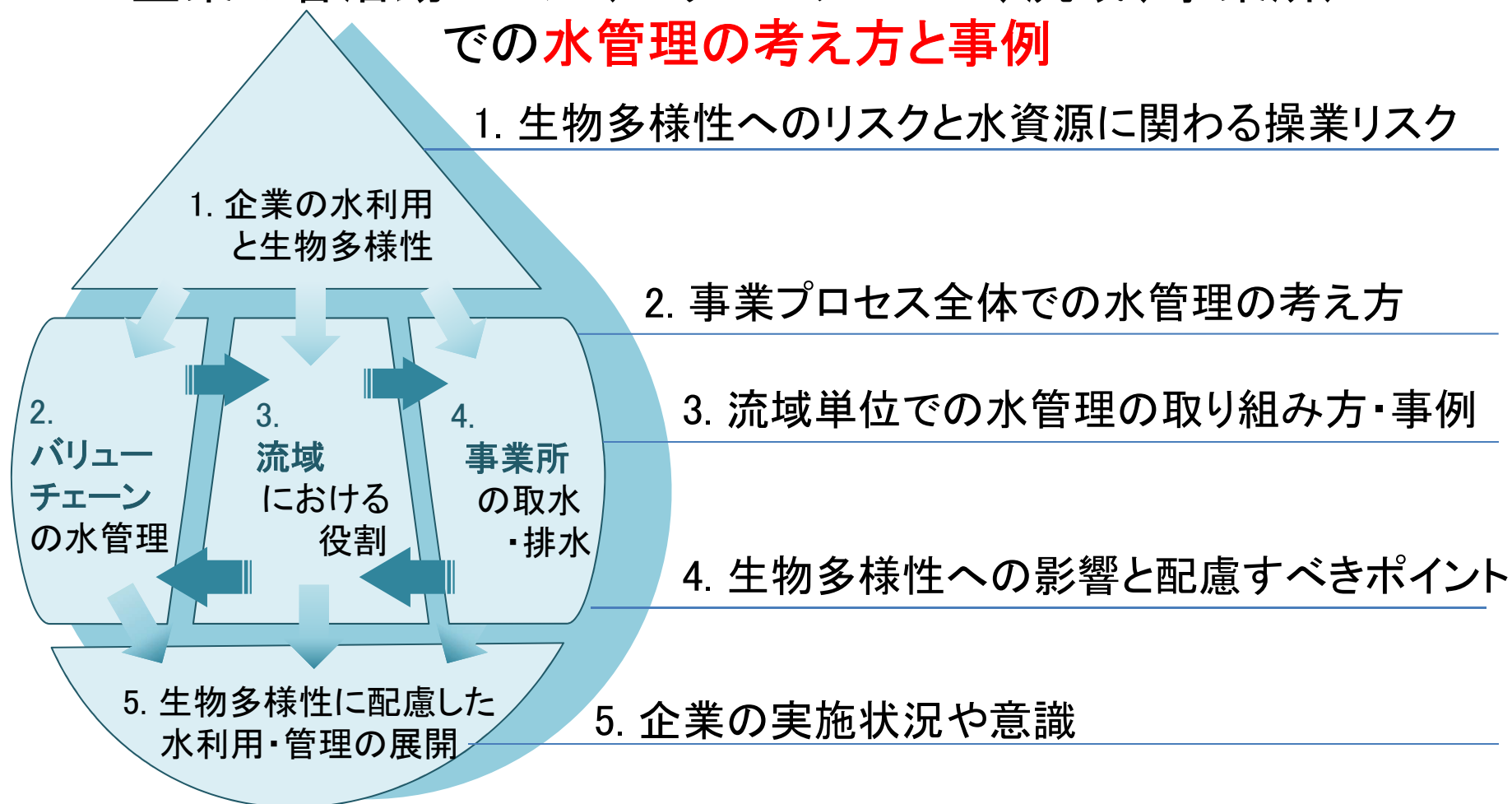


生態系に配慮した
企業の水管理評価ツール
(2015年発行:会員限定公開)

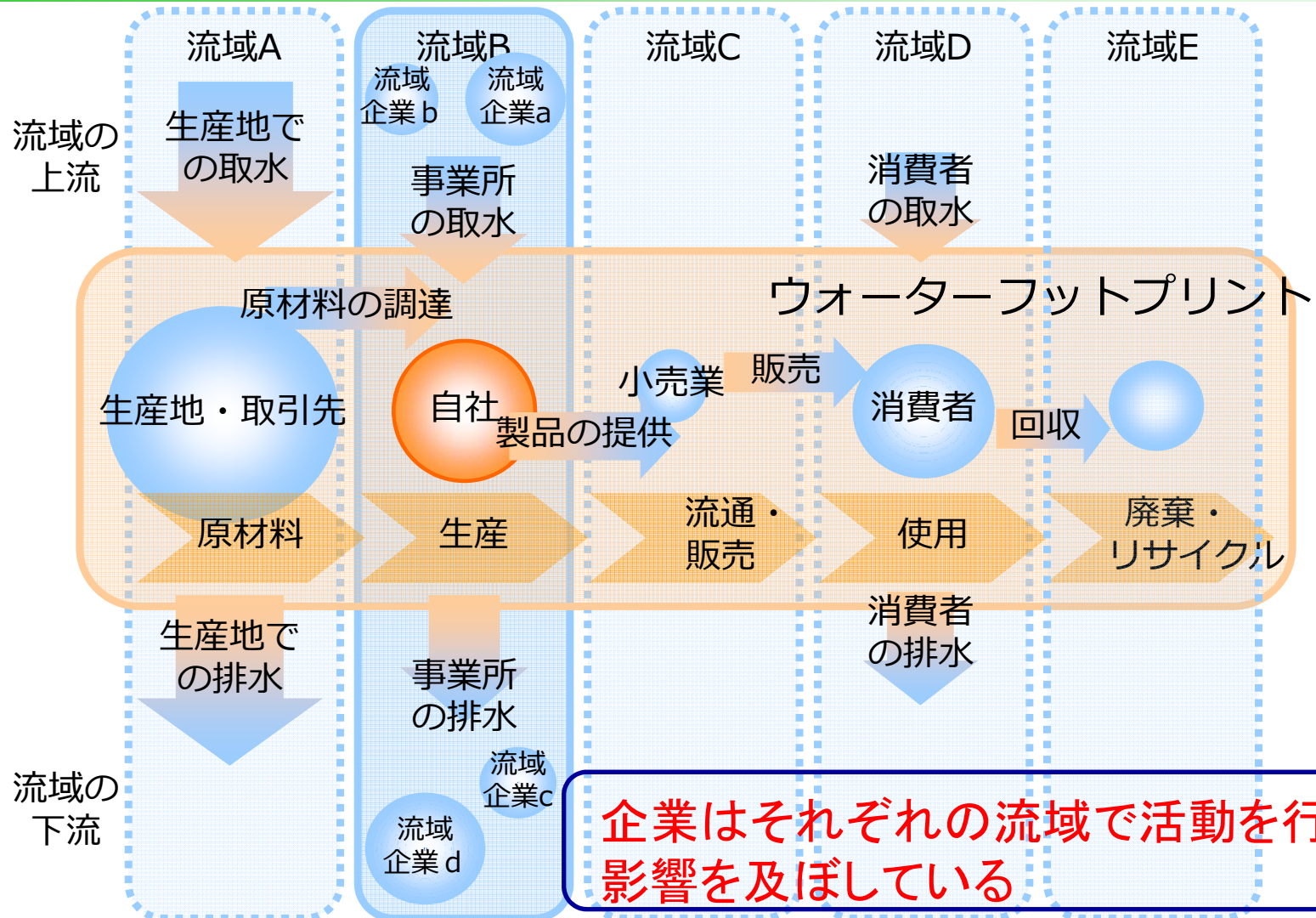


「生物多様性に配慮した 企業の水管理ガイド」

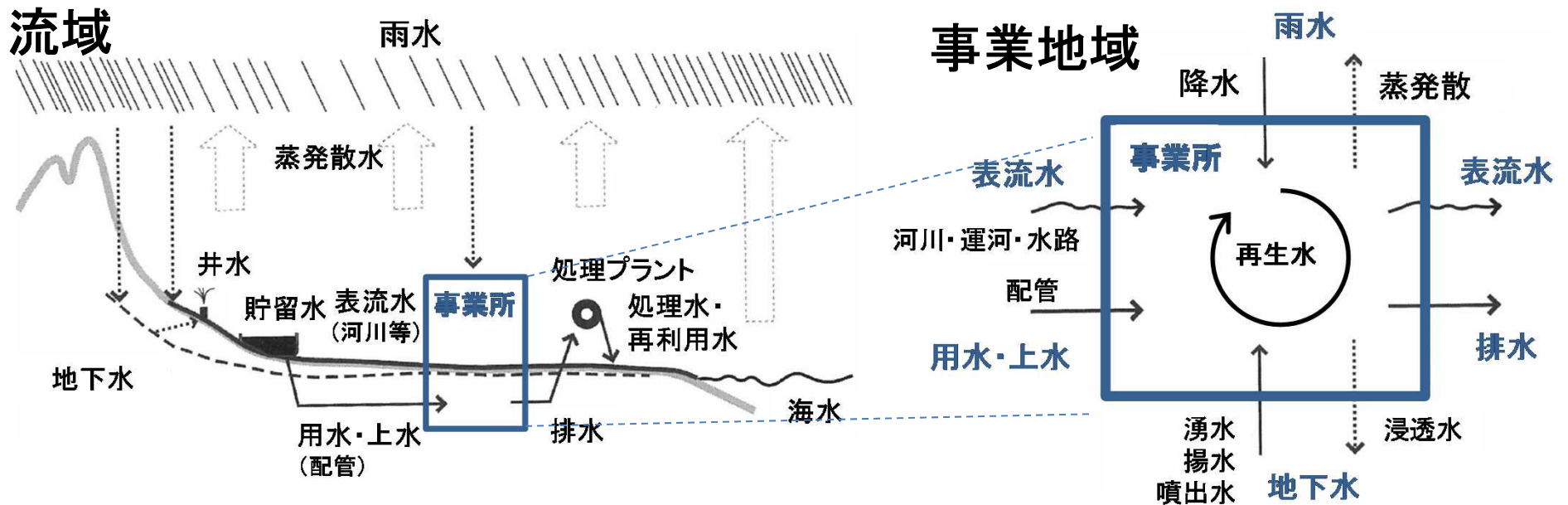
企業の各活動レベル(バリューチェーン、流域、事業所)
での**水管理の考え方と事例**



バリューチェーンでの水管理と ウォーターフットプリント



流域における企業の役割



流域

- ・ 多様な水環境との関連性の把握
- ・ 負荷や影響の把握
- ・ ステークホルダーの協働

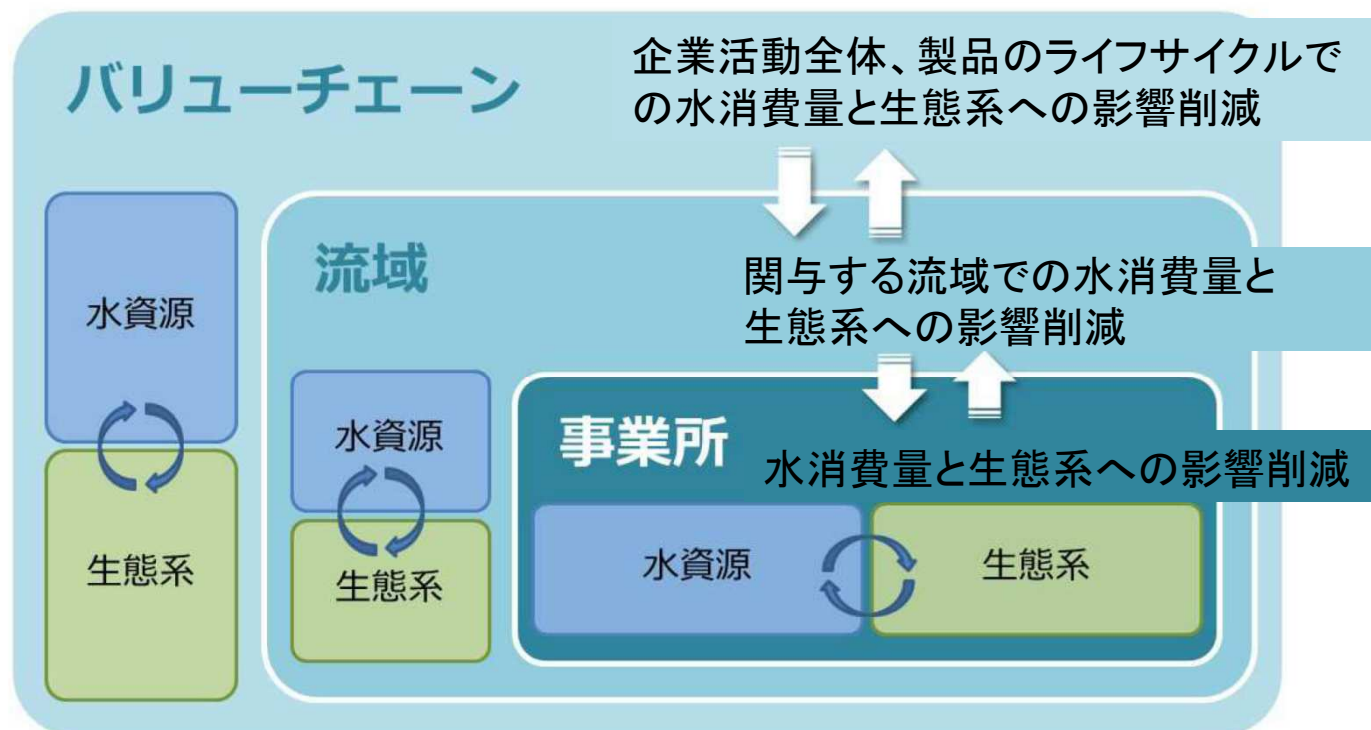
事業地域(取水元～排水先)

- ・ 影響と要因の特定
- ・ 関わりのある生態系の特定
- ・ 保全措置

水利用・生態系と事業活動の関係性を見える化

「生態系に配慮した 企業の水管理評価ツール」

企業の各活動レベルでの**水管理目標**を設定するための
具体化プロセスと手段



それぞれのレベルで水管理に取り組むことにより
相乗効果を創出し、サステナブルな水利用・水管理・生態系保全へ

事業所における水管理



排水管理項目の例

影響項目	管理項目	管理方法	Check
排水地域	排水地域周辺の水バランス	<input type="checkbox"/> 排水地域の周辺における水バランスの評価	<input type="checkbox"/>
	排水地域の生態系の質	<input type="checkbox"/> 生態系の管理指標の設定, 観測	<input type="checkbox"/>
排水位置	排水位置及び構造	<input type="checkbox"/> 排水位置および構造の管理	<input type="checkbox"/>
	排水地点の生息生物種・個体数	<input type="checkbox"/> 生態系全体の管理指標の設定, 観測	<input type="checkbox"/>
排水量	排水地点での排出量	<input type="checkbox"/> 排水量の計測	<input type="checkbox"/>
	周辺水域の流量・水位	<input type="checkbox"/> 流量・水位の計測	<input type="checkbox"/>
	排水量による生態系影響	<input type="checkbox"/> 流域（周辺水域）における生物相の観測	<input type="checkbox"/>
排水温度	排水温度	<input type="checkbox"/> 排水地点および周辺地域における排水温度の計測	<input type="checkbox"/>
	排水温度による生態系影響	<input type="checkbox"/> 管理指標生物の設定, 観測	<input type="checkbox"/>
有機物・栄養塩類の濃度	BOD、COD、窒素・リン等の濃度	<input type="checkbox"/> 排水地点および周辺地域におけるBOD、COD、窒素・リン等の濃度分析	<input type="checkbox"/>
	富栄養化による生態系影響	<input type="checkbox"/> 管理指標生物の設定, 観測	<input type="checkbox"/>
各種化学物質の濃度	各種化学物質の濃度	<input type="checkbox"/> 排水地点および周辺地域における各種化学物質の濃度の計測	<input type="checkbox"/>
	化学物質による生態系影響	<input type="checkbox"/> WET手法による生態毒性評価等	<input type="checkbox"/>

水管理・利用ガイドラインの開発



「生態系に配慮した企業の水管理評価ツールの中の “事業所における水管理”を具体化させたガイドライン

1) ガイドラインの目的

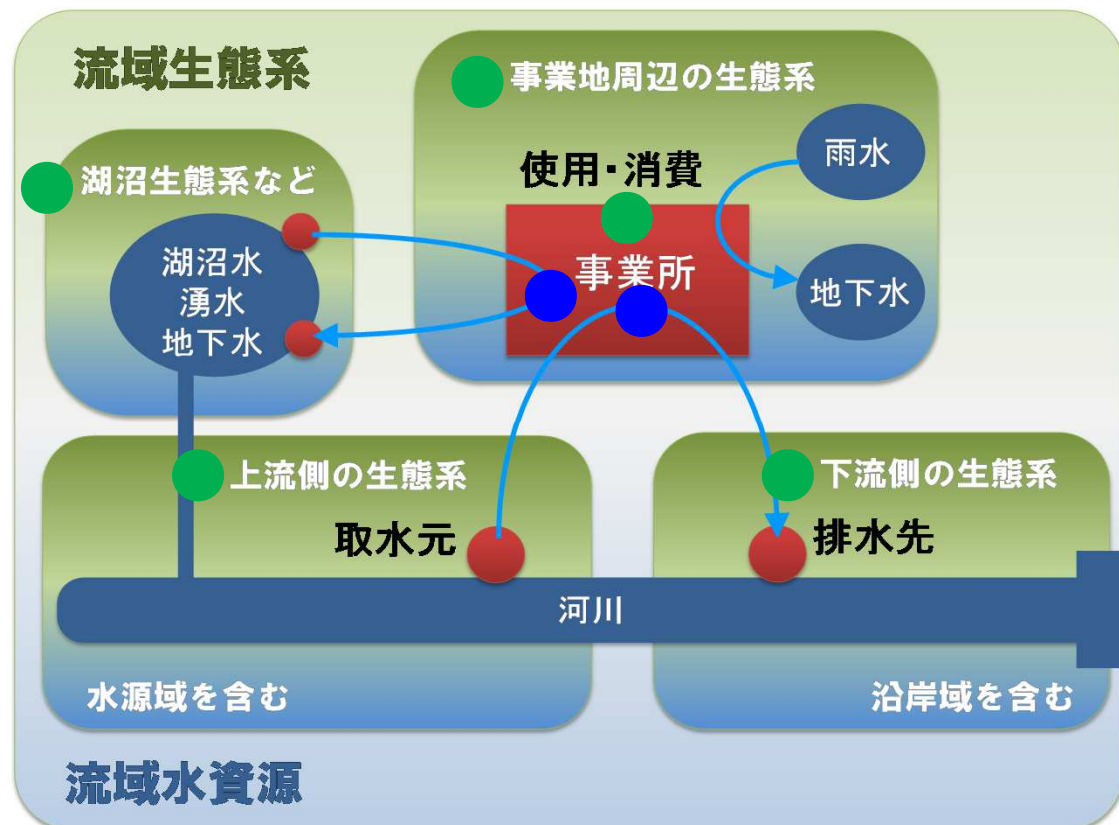
企業の事業所が立地する流域において水を管理、利用するに当たり
生態系に対して配慮すべき事項を明確にし、取組みを促す

2) ガイドラインの名称(案):

生態系に配慮した企業の水管理・利用ガイドライン

3) 評価ツール(案): 水管理・利用通信簿

水管理・利用評価ツールのポイント



- 事業所内の水管理
 - ・水関連法の遵守
 - ・BOD等の水質
 - ・生物毒性評価(WET) 等

- 流域の水管理
 - ・水環境のモニタリング
 - ・水環境の評価
 - ・(水環境教育)

- 水環境づくり
 - ・水辺の創出
 - ・外来生物対策 等

水管理・利用通信簿評価項目(案)



水関連法遵守 (100点/8項目)	水関連法の特定	要求事項の特定と整理	その他要求事項の特定と整理	遵守評価の実施
	対象施設の把握	対象施設の管理体制	水質データのチェック体制	規制値の遵守状況
生態系に配慮した水管理 (75点/7項目)	水フローの見える化	取水管理	排水管理	生態系への配慮
	化学物質の管理	水使用量の削減	水環境のモニタリング	より厳しい自主管理基準としてWETを評価項目に入れている
水環境づくり (13点/4項目)	水辺の創出	水源の利用	外来生物に対する対策	水生生物の保全活動
協働・活用 (12点/5項目)	地域及び専門家との連携	人材の育成と配置	水資源の保全活動	従業員の参画
	教育プログラムの推進	24項目200点満点で評価		

水環境保全の課題・要望



●WET導入のメリット

- ・従来法にWETを追加することで、より高いレベルでの排水管理が可能
- ・化学物質の生物毒性評価をしていることへの安心感
- ・先進的な評価法を導入していることのイメージアップ

●WET導入のデメリット

- ・費用負担増
- ・評価に時間を要する等日常的な管理には導入しにくい

●WETの課題

- ・WETによる評価結果と地域生態系への影響の相関性
- ・水質が変動する場合のWET評価の実施時期
- ・生物を用いた常時または短時間の水質評価法との併用

●水環境保全の課題

- ・流域生態系のあるべき姿の策定
- ・水環境教育の充実



ありがとうございました
To Be Continued...

JBIB Water